

令和7年度第1回白石市総合教育会議 議事録

- 1 招集日時 令和7年6月2日（月）午後5時
- 2 招集場所 市役所本庁舎 3階「第3会議室」
- 3 出席委員 白石市長 山田 裕一 教 育 長 半沢 芳典
教育長職務代理者 小室 秀一 教 育 委 員 鈴木 順子
教 育 委 員 大橋 扶美子 教 育 委 員 志村 洋一
- 4 事務局出席者
総 務 部：部 長 佐藤 純哉
保健福祉部：部 長 佐藤 恵一
子育て支援課：課 長 橋谷田 孝治
教 育 部：部 長 山田 知佳子
生涯学習課：課 長 佐藤 哲生
こども未来課：課 長 菅野 順一郎 課 長 補 佐 安彦 香織
主 幹 松野 秀子
学校管理課：課 長 山田 せつ子 教育専門監 石田 康之
課 長 補 佐 山田 裕介 主 幹 後藤 順子
- 5 開会時刻 午後5時
- 6 テーマ ・白石市立保育園の休園について
- 7 閉会時刻 午後5時50分

午後5時00分 開 会

事 務 局： 定刻になりましたので、ただいまから令和7年度第1回白石市総合教育会議を始めさせていただきます。当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に規定されており、地方公共団体の長と教育委員会との協議並びに調整の場という位置づけになっております。また、この会議は物事を決定する場ではなく意見調整の場でございます。なお、本日の会議の時間は概ね1時間を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、山田市長よりご挨拶申し上げます。

山 田 市 長： 総合教育会議開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より本市の教育行政について、様々な角度からご意見等をいただくとともに、力強いご支援をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。さて、本日の総合教育会議では、白石市公立保育園の休園について、意見交換をさせていただければと考えております。

本市では、令和6年9月に「白石市幼児教育・保育のあり方に関する基本方針」を策定いたしました。その方針のひとつとして「幼児期における一定規模以上の集団活動の環境整備」の観点から、「公立の認定こども園の完成を見込む令和10年度までに、公立5保育園において、1園あたりの4、5歳児を合わせた人数が10名を下回ることが継続的に見込まれる場合には休園を検討する」と定められておりますことから、対象となる保育園の休園についてご意見を賜りたく、本日お集まりいただいた次第でございます。本日の議題について、皆様から忌憚のないご意見を頂戴したく存じます。

結びに、今後とも、教育委員の皆さまとの連携を強化しながら、さらなる教育行政の推進、そして子育て支援のさらなる充実を図り、子育てと教育で「選ばれるまち白石市」を目指してまいりたいと考えております。今後ともご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、開会のあいさつといたします。本日は、よろしくお願いいたします。

事務局： 議長選出につきましては、白石市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長が議長となり、会議の進行をするとされておりますので、ここからの進行は山田市長にお願いいたします。

山田市長： それでは議長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。
初めに、教育委員会から「白石市立保育園の休園」について説明をお願いします。

半沢教育長： それでは、公立保育園の休園につきまして、私よりご説明申し上げます。
教育委員会としては、今年度末をもって、白石市越河保育園、大鷹沢保育園、白川保育園の3園を休園する方向で手続きを進めてまいりたいと考えております。

まず初めに、休園検討に至った経緯につきましてご説明申し上げます。本市では、令和6年9月に「白石市幼児教育・保育のあり方に関する基本方針」を策定しております。

資料項目1に記載のとおり、その方針のひとつとして「幼児期における一定規模以上の集団活動の環境整備」の観点から、「公立の認定こども園の完成を見込む令和10年度までに、公立5保育園において、1園あたりの4、5歳児を合わせた人数が10名を下回ることが継続的に見込まれる場合には休園を検討する」と定めております。

次に、資料項目2に記載のとおり、現状として、本市でも少子化の影響で子どもの数が減少しております。中でも、越河、大鷹沢、白川保育園においては、令和7年度で10名を下回っております。また、この3園は、次年度以降も10名を継続的に下回ることが予測されていることから、幼児期に必要な集団活動の確保が困難な状況が見込まれております。このことから、現状を理解していただくため、こども未来課において、今年の2月から3月にかけて、対象となる園の保護者に対し、今後の園児数見込みの報告会を開催いたしました。保護者からは、集団生活についての不安の声や休園の有無についてのご質問などがございましたが、全体的には少人数になることから休園に理解を示す意見や要望が多く上げられました。この報告会は、休園に関する

方向性は特に示さず、現状を報告したものでしたが、いただいた意見や要望は、今後の就園などに関わるものであったことから、教育委員会として、基本方針に基づく方向性を早期に示す必要があると判断いたしました。

このことから、今年の3月27日に市当局も含め協議行った結果、これら3園は休園する方向で手続きを進めるという結論に至ったものでございます。

続きまして、保護者、市民、保育士などへの説明の概要をご説明申し上げます。先ほど申し上げました結論を踏まえ、これまで保護者並びに地区をはじめとする市民の方々、また、公立園の保育士、幼稚園教諭、私立園事業者を対象に、計24回、説明会を実施いたしました。まず、保護者に対しては、早急に市の方向性をお示しする必要がありますことから、4月に公立の全保育園・幼稚園の保護者を対象として説明会を開催いたしました。各園の説明会では、園児数の減少が大きく進んでいる状況であることから、休園の方向性に対して、保護者からは大きな異論はなく、ご理解をいただくことができたと考えております。

また、保育園の休園を検討していく過程においては、地域の方々にもご理解をいただく必要があったことから、5月に対象となる地区をはじめとする市民の方に向けて説明会を開催いたしました。各説明会では、地域から施設がなくなることに対する不安の声や園児への対応などについて、数多くのご意見やご質問、ご要望をいただきました。しかしながら、保護者への説明会と同様に、園児数の減少が大きく進んでいる状況でありますことから、休園の方向性に対して、反対や園の存続を望むといったご意見は特段なく、市民の皆さまからも概ねご理解をいただけたものにとらえております。

さらに、本件は、子ども・子育て支援法に基づき市で設置している「子ども・子育て会議」における調査審議事項であったことから、議題として提出いたしました。会議は5月26日に開催され、保護者や市民に対する説明会での内容なども踏まえ、説明したところ、本方針について、委員からは特に異論はございませんでした。

これらを踏まえ、教育委員会といたしましては、子どもにとって望ましい集団活動の環境を確保していくことを第一に考え、資料項目3に記載のとおり、今年度末をもって3園について、休園する方向で考えております。

なお、本方針は6月4日に開催される定例教育委員会にて審議いただく予定としております。

以上、公立保育園の休園につきまして、ご説明させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

山田市長： ありがとうございます。ただいま、半沢教育長から、「白石市立保育園の休園」に関するご説明をいただきました。

それでは、私から意見を述べさせていただきたいと存じます。現在の我が国の少子化の状況は、非常に深刻な状況にあり、令和6年度発表された令和5年度に日本で生まれた子どもの人数は、72万人という報道がなされました。国は、1899年から毎年様々な統計を取っており、出生数についてもこの時期からの統計が公表されています。その中で72万人という数字は過去最低です。さらに72万人という数字は、日本で生まれた外国籍の子ども含めてのものとなっています。日本国籍の子どもについて

は、60 数万人であり、これが現状であり、人口減少を迎えている我が国の大きな課題であると私は捉えているところです。

今回の協議に関する資料を拝見しましたが、令和 7 年 4 月 1 日の在園園児数は、休園対象保育園においていずれも 10 人を下回っています。また、令和 8 年度、令和 9 年度を見ても継続的に 10 人を下回る予測となっています。

本市では令和 6 年度から、教育委員会と共に教育改革 3.0 を進めているところですが、これは、幼児教育を質の高いものにしていきたいという私の思いでもあります。

教育委員の皆様もご存じのことと思いますが、市長部局から保育に関する事務を教育委員会部局へ移管したのは、0 歳から幼児教育・保育をさらに質の高いものにしてまいりたいとの思いからです。おかげ様で、文部科学省の「幼保小架け橋プログラム」の指定を受け、本市の取り組みは、他の自治体に類を見ない成果を挙げていると受けとめているところです。

また、全国的にみても、小学校低学年の不登校の児童が非常に多くなってきています。これについては、コロナ禍の影響があるとの専門家の見解も耳にしています。本来、幼児期に、友達と集団行動をしたり、いろいろな活動をすることによって、幼児期に備わる力、逆に大人が育ててあげなければならない部分が結果として、コロナ禍によって、人との距離を取らなければならなくなるなど、十分な経験ができずに、今の状況になっているのではないかと分析をされているところです。

私は、幼児期であるからこそ、ある程度まとまった人数の中で、時には、ケンカをし、仲直りをするのが非常に重要であると考えています。現在では、核家族化が進むとともに少子化の状況にあり、家族の人数も以前よりも少ない状況です。

であるからこそ、集団での活動は大切であると思っています。今回の公立保育園の休園について、市長部局としてもこの問題と一緒に取り組んでいきたいと思っております。今回の協議事項については、これまで、24 回にわたり、説明会等で丁寧に説明をしていただいたことに感謝しております。すべての市民の皆様にご理解いただくことは難しいことであると思いますが、子どもたちのため、大人がより良い環境をつくるのが何よりも重要であると捉えています。教育改革 3.0 の成果として、本市の図書館、学校、保育園が、3 年連続で「子供の読書活動優秀実践校・園・図書館」に選出され、文部科学大臣からの表彰を受けている事実は、本市の取り組みが評価されてのことで、方向性は間違っていないと考えています。子どもたちのため、教育委員の皆様とともに頑張っていきたいと思っております。

以上、私からの意見を述べさせていただきました。教育委員の皆様からのご意見を伺えればと思います。教育委員の皆様からご意見等ございましたら、ぜひ、ご発言をお願いいたします。

小室委員： まず、結論として協議事項の 3 園を休園することについては賛成です。今回のことは、白石市幼児教育・保育のあり方に関する基本方針に基づくもので、この方針については、何回も説明会を実施して作り上げたものです。この基本方針の中には、1 園当たりの 4、5 歳児を合わせた人数が、10 名を下回ることが継続的に見込まれる場合には、休園を検討するとされています。

ですから、この流れは、将来的な白石市の幼児保育・教育をどのようにしていくの

かと考えた場合の通過点であると考えます。また、今回の休園については、前回（5月）の定例教育委員会で提起され、継続審議としていますが、事務局からの説明があり、教育委員は全員意見を述べています。休園に当たり注意すべき点を述べていますが、教育委員は全員方針に賛成の立場です。これまで丁寧な説明を行っていただいていますので、提案している方針どおり、進めていただきたいと思います。

鈴木委員： 丁寧な説明を行い、保護者、地域の方の理解を得ていると判断しています。子どもたちの新しい園へのスムーズな移行を進めて欲しいと思います。保護者や子どもたちが困ることのないように進めていただければと思っています。

山田市長： 教育委員会から公立、私立の各園の特徴などをお伝えし、可能であれば、見学会を開くなどすれば、保護者の方も安心かもしれません。貴重なご意見ありがとうございました。

大橋委員： 私も、休園については、賛成です。市長が先ほど言われたように、コロナ禍の影響で不登校が多くなったと身近な案件として感じています。これから社会に出ていく中で、集団に自然と入っていくことができる環境があれば良いと思います。

山田市長： 子どもたちは環境に適用する柔軟な力を持っていると思います。ある程度の人数がいるところで成長していくことができればと思います。

志村委員： 休園には賛成です。私は、幼児教育・保育のあり方に関する基本方針は高く評価しています。この方針に則って進めるのが正しい方法であると思います。子どもたちが少ない中でアットホームであるとの見方もできるかもしれませんが、ある程度人数がいて、友達を作り、時にはけんかをし、仲直りもしていくスキルを学ぶ機会を整えるのも大人の役目かと思います。教育の基本は大人になった時に、集団で生きていくためのスキルを身に付けていくことなのではないかと思います。その意味で言えば、現状の人数では、そのスキルを身に付けるのは難しいのかなと思います。よって、基本方針に則り進めていただくことが最善策であると思います。

山田市長： ありがとうございました。大人が子どもの教育の環境を最優先に考えていくのが責務であると思います。少子化であるからこそ、子どもたちは将来たくましく生きていかなければなりません。そのために各年代でいろいろな経験をしていくことが大切であると思います。

ここで、教育長に伺います。ただいまの4人の教育委員の皆様、それぞれの視点でご意見を伺いましたが、教育長として補足する点などあれば発言をお願いいたします。

半沢教育長： 市長からコロナ禍と不登校の関連に関するお話をいただきましたが、不登校だけではなく、問題行動も増加していることが取り上げられています。コロナ禍が原因で短期間に急激に増加したとの報告もありました。幼児教育においては、2歳までに善悪や優劣の感覚が芽生えると言われています。人間は社会的動物であり、集団の中にいるものであ

り、やって良いことと悪いことなど、一定の規範がないと生きていけないものです。幼児期は、このことが身に付く時期であり、これが身に付かないと授業妨害などの行動を起こすことにつながりかねません。なぜ、集団は必要であるかという点、自分と他者の区別が集団の中でないと形成されないからです。集団であるからこそ他者との比較が生まれ、悪いことをすれば、罪悪感が芽生え、恥の意識を持ったりします。他人を意識することで他人の気持ちが分かるようになる。例えば、自分が転んで痛い経験をしないと他人の痛いという気持ちは分からない。こういったものは、一定の集団で生活する中で身に付いていくものです。

コロナが終息し、問題行動は収まってきているという見方もあります。コロナ禍であろうとなかろうと人数が少なければ、集団での経験がないためその行動ができない場合もあります。中には子どもが1人でも良いとの意見もありましたが、今後も教育委員会としてなぜ集団が必要なのかを市民の皆様や議会にも丁寧に説明をしていきたいと思っています。

山田市長： ありがとうございます。その他追加のご意見があればお願いいたします。

小室委員： 今回休園の提案をいただいている3園については、4, 5歳児で10名に満たないばかりか全体でも10名を下回り、今後もそれが続くと言われています。このままでは、集団で学ぶことが今後できないということになることを危惧していることを補足します。

山田市長： 子どもが1人でも良いとの意見もあるとのことですが、集団生活の大事さを理解していないのかと感じます。また、24回にわたる説明会の中で市議会議員から10人という根拠がどうなのかという声があるとも聞いています。本日の話を聞いて、私は、集団の大切さを十分に感じることができました。集団の中でしか相手を思いやる気持ちを身に付けることができないことを広く皆さんに知っていただくことが大切と感じました。

半沢教育長： 小学生からは座学が始まりますが、幼児教育において教科書はありません。遊びの中で理解していくものがあります。幼児期において集団の中で身に付けていくものがありますが、少子化が進む現状では、兄弟の数も減っています。この状況においては、相手を思いやる気持ちは家庭で身に付けることは難しい状況です。市議会で質問がなされれば、これまでの説明をしていきたいと思います。また、ホームページや広報紙等で、集団における幼児教育の大切さを伝えていきたいと思います。

山田市長： そのほか、委員の皆様から追加、補足する点はございますか。

鈴木委員： スクールカウンセラーとしての活動を行っていると言っていると不登校などの相談を受けることがあります。不登校の子どもたちは、同世代の子どもたちと関わるよりは大人と関わるほうが安心できると言います。大人は子どもを傷つけることはしませんが、同世代からは傷つけられることがあるかもしれない。しかし、同世代で切磋琢磨していくのが大事であると考えていることを補足します。

志 村 委 員 : 経験則になりますが、身近で10名以上のクラスに所属している子と10名未満のクラスに所属している子の状況がありました。10名以上のクラスでは、けんかもあったが、その後、仲直りしていました。一方、10名未満のクラスでは、けんかもなくずっと仲良しでしたが、その後、高校に行き不登校となる子どもがいました。私は、10名という数字は様々な経験をできるという観点から絶妙な数字であると感じます。10名以上いれば、集団が2つや3つできることもあります。その中でぶつかってみたり、仲直りしてみたりすることが大事なのではないでしょうか。社会は3名以上いないと成立しません。10名という数字は絶妙であると思います。

山 田 市 長 : ある程度の人数は、必要ですね。社会に出れば2,3人としか関わらないということはありませぬ。それを考えれば、幼児期、小学校も含めてですが、ある程度の人数で揉まれる必要があるということです。ありがとうございました。本日は、皆様から貴重なご意見をいただきました。協議については以上で終了させていただき、その他、事務局からございますか。

事 務 局 : ありません。

山 田 市 長 : それでは事務局からの発言はないということでございますので、本日の総合教育会議の議長の任を解かせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

事 務 局 : 山田市長ありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、半沢教育長からご挨拶を申し上げます。

半沢教育長 : 冒頭、事務局から申し上げましたが、本来この会議は調整の場であります。しかしながら今回、ご参加の皆様の意見が一致したことは大変嬉しく思っております。明後日(6月4日)、定例教育委員会が開催されます。そこで機関決定ができるのではないかと思っております。子どもの数が大きく減少しているからこそ、集団で、そして遊びの中で学んでいくことが大切です。今後も、市長部局と連携し、取り組んでまいりたいと思います。本日は、どうもありがとうございました。

事 務 局 : 以上で、令和7年度第1回白石市総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

午後5時50分 閉 会